

中井町環境基本計画事業点検・評価シート

(一次評価) 令和 7 年 7 月 1 日
(二次評価) 令和 7 年 7 月 28 日

令和 6 年度分

項 目	太陽光発電システム設置補助件数	担 当 課 名	産業環境課
		関 係 課 名	
環 境 像	地球温暖化対策の推進「住民みんなで地球温暖化問題に取り組むまち」		
事 業 名	太陽光発電システム設置補助事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	設備設置者	手段 (どのように)	設置費の一部を補助する
	目的 (どうしたいのか)	太陽光発電システムを普及させることで、節電や地球温暖化対策への町民の意識の高揚を図る		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。				
目 標	10	基／年		
事業内容		令和6年度 実績	令和5年度 実績	令和4年度 実績
太陽光発電設備 設置数		5 基	5 基	5 基
蓄電池 設置数		5 基	6 基	5 基
HEMS 設置数		2 基	1 基	4 基

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乗せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乗せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コ メ ン ト		
平成21年度より補助制度を開始し、令和6年度末までに累計198件の補助を実施した。 平成29年度に策定した「中井町地球温暖化対策実行計画」にて、目標値を300件と定めており、今後も事業を継続していく。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

太陽光発電の固定価格での買取期間が10年間と規定されており、固定買取期間の満了を理由に、蓄電池購入の申請を行う人も見て取れる。令和4年度より蓄電池及びHEMSへの補助件数の上限を5件に増やし、創エネ、畜エネ、省エネの一体とした普及を図っている。現在、資材費や人件費等の上昇により、導入費用の高額化が加速する恐れがあるため、設置(申請)件数への影響が懸念される。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
過去の一次評価	B	B	B	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である └ ー 1 拡充すべき事業である └ ー 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ ー 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総評	・太陽光発電の固定価格での買取期間が10年であり、設置経費その後の維持管理、蓄電池は設置経費、HEMSは設置することにより効率的な節電に有効ですが、いずれも初期投資等が必要。補助を継続し、中長期的普及啓発が必要と考える。 ・防災面からも必要であるので、設置数が増加するような工夫した周知が必要である。	

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
過去の二次評価	B-2	A	A	A

項 目	エコドライブ啓発活動	担 当 課 名	産業環境課
		関 係 課 名	総務課
環 境 像	地球温暖化対策の推進「住民みんなで地球温暖化問題に取り組むまち」		
事 業 名	エコドライブ推進事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民・事業者	手段 (どのように)	エコドライブの啓発
	目的 (どうしたいのか)	エコドライブを推進することで車両から排出されるCO2を削減し、地球温暖化を図る		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	1	回	
事業内容	令和6年度 実績	令和5年度 実績	令和4年度 実績
エコドライブ啓発活動	0回	2 回	0 回
公用車にエコドライブ推進の啓発テープ貼付	6台	台	台

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コ メ ン ト		
	● 公用車へエコドライブステッカーを貼付し、エコドライブの推進を周知。 ● 普段から「エコドライブ」の意識を持ち合わせること及び内容の把握が大事なことから、広報等を活用して意識高揚や行動内容の周知を図るなどの取組実施に努める。		

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

○エコな運転が出来ているか否かを他者が確認や評価をするわけではなく、個人の良識に委ねざるを得ないこと。
●交通安全運動期間などに合わせて、エコドライブ(①燃費を把握しよう、②ふんわりアクセル「eスタート」、③車間距離にゆとりをもって、加速・減速の少ない運転、④減速時は早めにアクセルを離そう、⑤エアコンの使用は適切に、⑥ムダなアイドリングはやめよう、⑦渋滞を避け、余裕をもって出発しよう、⑧タイヤの空気圧から始める点検・整備、⑨不要な荷物はおろそう、⑩走行の妨げとなる駐車はやめよう)を啓発。
●「エコドライブ推進月間」の11月に庁舎等へポスター掲示
●神奈川県(環境農政局脱炭素戦略本部室)が申込み(2028年12月31日12時迄)にて無料配布している「エコドライブステッカー」の活用を周知。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
過去の一次評価	D	D	B	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である └ — 1 拡充すべき事業である — 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) — 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総評	・エコドライブの手法が10項目あることから、引き続き丁寧に広報する必要がある。 ・ハード面では、ハイブリット車や低燃費車両によりCO2が削減されている面もあり、今後指標転換も検討するべき。	

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
過去の二次評価	B-3	B-3	A	A

項 目	環境家計簿参加者数	担 当 課 名	産業環境課
		関 係 課 名	
環 境 像	地球温暖化対策の推進「住民みんなで地球温暖化問題に取り組むまち」		
事 業 名	環境家計簿推進事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民	手段 (どのように)	環境家計簿を普及させる
	目的 (どうしたいのか)	家庭において環境家計簿を普及させることで、町民の地球温暖化及び環境保全への意識の向上を図る		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。				
目 標	10 人			
事業内容		令和6年度 実績	令和5年度 実績	令和4年度 実績
環境家計簿参加者数 実数		5人	9人	6人
太陽光発電システム等設置費補助金 受給者		5人	9人	5人
住宅用蓄電池設置費補助金 受給者		5人	5人	6人
HEMS設置費補助金 受給者		2人	1人	1人

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	C	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コ メ ン ト		
太陽光発電システム設置費補助金、住宅用蓄電池設置補助金及びHEMS設置補助金の申請要件として、システム導入から1年間の環境家計簿の提出を義務付けており、実績値は補助金受給者数となっている。受給者1人で複数の補助金を受けている者もいるため、令和6年度の補助件数は12件(5名)となっている。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

年々エネルギー価格が高騰するなか、環境面だけでなく経済面での利点も広報し、太陽光発電システム等設置者以外へも、広報紙やホームページ等を活用しての普及啓発を図り、省エネ等の環境について考えるきっかけの一助としたい。 これまでに蓄積されたデータについては、分析・検証し、他の事業に活用することも検討していく必要がある。
--

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
過去の一次評価	B	B	B	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である └ — 1 拡充すべき事業である — 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) — 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総評	・事業が環境家計簿推進であることから、太陽光発電システム等設置者以外へも、広報やホームページを活用し参加者を募り、省エネ等の環境について普及啓発を図る必要がある。 ・対象者や実施方法等については、検討が必要ではないでしょうか。	

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
過去の二次評価	B-2	B-2	A	A

項 目	温室効果ガス排出量の削減量	担 当 課 名	産業環境課
		関 係 課 名	総務課
環 境 像	地球温暖化対策の推進「住民みんなで地球温暖化問題に取り組むまち」		
事 業 名	中井町地球温暖化対策推進事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民、事業所、行政	手段 (どのように)	それぞれが主体的に地球温暖化防止に取り組む
	目的 (どうしたいのか)	温室効果ガス排出量を削減する		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	26	%		
事業内容	令和6年度 実績	令和5年度 実績	令和4年度 実績	
公共施設及び公用車の使用によるCO2排出量	1,415,057 kg/CO2/年	1,338,652 kg/CO2/年	1,263,223 kg/CO2/年	
CO2削減率(前年度比)	5.71%	5.97%	17.44%	
CO2削減率(平成25年度比)	9.44%	3.53%	-2.30%	
	↑ 令和5年度の実績値	↑ 令和4年度の実績値	↑ 令和3年度の実績値	
低公害車両保有台数(公用車)	21台	17台	17台	

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価

B	評価基準	
	S：これまでの実績に大幅に上乗せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
	A：これまでの実績に上乗せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
	B：これまでの実績を維持	
コメント		
<p>●電気の使用量がCO2排出量の9割超を占めますが、燃料の使用量は横ばいで推移しているものの、二酸化炭素排出量算出の際に用いる環境省の排出係数が年度や事業者により異なる状況のため、単純に使用量の減少が排出量の減少とならないことを鑑みて「B」評価としました。</p> <p>使用量)H31・R元…3,102.738kWh、R2…3,107.500kWh、R3…3,079.615kWh、R4…3,044.738kWh、R5…2,997.267kWh</p> <p>●今後も出来ること・やることを粛々と実行する。</p>		

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

●排出量全体の9割を占める電気の排出量算出に用いる係数が大きく影響することから、使用量の削減＝排出量の削減とならないため、使用量の削減実態が見えにくいこと。 ●機器の更新時には、低消費電力のものを選択するように努める。
--

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
過去の一次評価	A	B	B	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である ┌ ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総評	・使用量の減少が排出量の減少とならないことがわかりづらいが、低消費電力機器の選択等と併せて継続実施すべきである。 ・公用車の計画的なエコカー化が期待できるので継続は可。	

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
過去の二次評価	B-2	A	A	A

項 目	食品ロス対策	担 当 課 名	産業環境課
		関 係 課 名	教育課
環 境 像	循環型社会「限りある資源を大切にすまち」		
事 業 名	ごみの減量化対策事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民、事業所	手段 (どのように)	それぞれが主体的に食品ロス対策に取り組む
	目的 (どうしたいのか)	食品ロスを削減する		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	食品ロス削減のための啓発			
事業内容		令和6年度 実績	令和5年度 実績	令和4年度 実績
境・中村地区の食ロス調査結果		—	11.2%	—
宮上・北窪地区の食ロス調査結果		8.0%	—	13.1%
学校給食残渣の無償譲渡		1社	1社	1社
食品ロス啓発活動		3校	3校	3校

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コ メ ン ト		
学校給食残渣を飼料として養鶏場は無償譲渡することで、ごみの減量化を図っている。 町内小中学校において、食育の中で食品ロス啓発に取り組んでいる。 今年度も引き続き、大井町・松田町の3町で食ロス実態調査を実施した。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

食ロス実態調査を平成30年度から実施しており、継続的に実施することにより、食品ロスの実態を把握していくことが重要である。また、調査を実施していて、ごみの分別が不十分であることも見受けられることから、分別の徹底についても継続的に周知を行う。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
過去の一次評価	B	B	B	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である └ — 1 拡充すべき事業である — 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) — 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総 評	・継続していくことが、循環型社会をつくっていくことになる。 ・引き続き飼料として養鶏場は無償譲渡によるごみの減量化、食ロス調査の実施、ごみ分別の徹底を周知する。 ・広報などで、具体的方策で拡充すべき。	

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
過去の二次評価	B-2	B-2	A	A

項 目	事業系ごみ対策	担 当 課 名	産業環境課
		関 係 課 名	教育課
環 境 像	循環型社会「限りある資源を大切にすまち」		
事 業 名	ごみの減量化対策事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	事業所	手段 (どのように)	ごみ排出状況の確認及び減量化の啓発
	目的 (どうしたいのか)	事業系ごみの減量		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	排出状況の確認、減量化・資源化の啓発		
事業内容	令和6年度 実績	令和5年度 実績	令和4年度 実績
事業系ごみ排出量(可燃ごみ)	674t/年	691t/年	707t/年
町内小中学校におけるごみの減量化・再資源化	3校	3校	3校
給食施設から排出される廃食用油の資源化量	1,042kg/年	855kg/年	979kg/年

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乗せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乗せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コ メ ン ト		
町内小中学校では、ごみの減量化・分別の徹底に加え、インクカートリッジ回収や書道紙リサイクルプロジェクトなどのリサイクルの推進にも取り組んでいる。給食センターでは、廃食用油の資源化に取り組んでいる。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

引き続き、事業系廃棄物の排出量の把握に努め、継続してごみの減量化の啓発を行う。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
過去の一次評価	B	B	A	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である ├ — 1 拡充すべき事業である ├ — 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ — 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総 評	・ごみの減量化、そしてリサイクル・リユースなどを行って資源化にも取り組みたい。 ・事業系廃棄物の排出量の把握を継続し、ごみの減量化を図る。 ・回収業者と供に事業者へ排出量削減を周知させる必要あり。	

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
過去の二次評価	B-2	A	A	A

項 目	不法投棄件数、量	担 当 課 名	産業環境課
		関 係 課 名	
環 境 像	循環型社会「限りある資源を大切にすまち」		
事 業 名	ごみの減量化対策事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町内全域	手段 (どのように)	パトロールや監視カメラの設置、不法投棄物の早期回収により不法投棄されない環境づくり
	目的 (どうしたいのか)	不法投棄ゼロ		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。				
目 標	不法投棄ゼロ			
	事業内容	令和6年度 実績	令和5年度 実績	令和4年度 実績
不法投棄 件数		23件	19件	20件
不法投棄 回収量		2,410kg/年	2,440kg/年	2,870kg/年

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コ メ ン ト		
シルバー人材センターに委託をし、月に6回不法投棄パトロールや神奈川県と合同で年2回不法投棄パトロールを実施した。また、職員によるパトロールや不法投棄箇所の現地確認・回収を行った。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)	
不法投棄パトロールの継続実施、不法投棄をされない環境づくりが必要である。	

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
過去の一次評価	B	B	B	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します				
今後の方向性	A	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である └ ー 1 拡充すべき事業である └ ー 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ ー 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である		
総評	・引き続き関係機関と連携しパトロールを継続実施、不法投棄されない環境づくりが必要である。 ・投棄量は減っているが、件数は増加しており悪質化しているようである。よく捨てられる場所は分かっているでしょうか、トレールカメラを夜間仕掛けて車の特定をして摘発するべきではないか。			
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
過去の二次評価	A	A	A	A

項 目	生態系調査実施	担 当 課 名	産業環境課
		関 係 課 名	
環 境 像	自然環境「四季を感じる自然と共生するまち」		
事 業 名	生態系調査実施事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	動植物	手段 (どのように)	定期的な調査の実施
	目的 (どうしたいのか)	調査結果を町の資源として、環境学習や観光等に活用するとともに、生態系保全の仕組みを構築する		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	定期的な調査、生態系保全の仕組みづくり		
事業内容	令和6年度 実績	令和5年度 実績	令和4年度 実績
副読本(なかいの生きものかんさつブック) 販売量	2 冊	1 冊	0 冊
生態系調査	未実施	未実施	未実施

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	評 価 基 準		
	D	S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
		コ メ ン ト	
本年度は副読本の販売はあったが、生態系調査について未実施のため「D」評価としている。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

啓発を図るために副読本の存在を周知していく必要がある。
生物多様性調査は10年サイクルで実施するため、前回の調査から8年が経過することから、予備調査の実施方法等検討が必要である。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
過去の一次評価	C	C	D	D

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	B - 2	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> └ 1 拡充すべき事業である └ 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総 評	<p>・生態系調査についてR4～R6は未実施であり、調査についての実施方法の見直し等検討する必要がある。</p> <p>・今年度から予備調査に着手したので、次年度以降は改善するでしょう。本の販売は、他課主催の環境関連事業で販売するなどの努力をしてください。</p>	

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
過去の二次評価	A	B-1	A	B-2

項 目	森林等保全事業	担 当 課 名	産業環境課
		関 係 課 名	
環 境 像	自然環境「四季を感じる自然と共生するまち」		
事 業 名	森林等保全事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町内の森林	手段 (どのように)	国の水源環境譲与税や県の水源環境税の活用、また、日本の竹ファンクラブ等の団体活動により
	目的 (どうしたいのか)	里山の自然環境を地域資源として後世に引き継ぐために、森林の維持保全を継続していく		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。				
目 標	定期的な調査、生態系保全の仕組みづくり			
	事業内容	令和6年度 実績	令和5年度 実績	令和4年度 実績
	森林環境譲与税 譲与金(積立額)	2,388,000円	1,990,000円	1,990,000円
	かながわトラストみどり財団による竹林整備	中井中央公園内	中井中央公園内	中井中央公園内
	水源の森林づくり事業	古怒田地区17.03ha	古怒田地区11.1ha	第4期計画測量調査

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乗せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乗せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コ メ ン ト		
森林環境譲与税は、過年度緊急性の高いナラ枯れの除伐に一部活用した。現在基金に積み立てている森林環境譲与税は、今後の公共施設等の整備や改修で木質化を図るうえで活用予定。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

町内に森林組合や林業事業者がないことから、森林保全は民間の任意団体の活動に頼っている状況で、民有林の維持保全は困難である。また、相続により町外在住の所有者が増加し、更に管理が行き届かない可能性がある。森林環境譲与税の年間譲与額が少額であることから数年は、基金への積立を行う必要がある。水源の森林づくり事業については、令和8年度までは県補助金を受け実施するが、令和9年度以降は県の方針も定まっていないため、補助金がどのようになるかを見定めた中で、検討していく必要がある。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
過去の一次評価	A	B	B	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である └ — 1 拡充すべき事業である — 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) — 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総評	・継続実施すべき事業と考えますが、関係団体や補助金を踏まえ事業展開を検討する必要がある。 ・老木の倒木は深刻。人身事故が発生しない為の対策が近々の課題。 ・水源の森づくりにより整備した山林は、一年間は良い状況だが、2年後には元にもどる。これで効果はあるのか。地主次第なのか。	

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
過去の二次評価	B-2	A	A	A

項 目	荒廃農地等活用事業	担 当 課 名	産業環境課
		関 係 課 名	
環 境 像	自然環境「四季を感じる自然と共生するまち」		
事 業 名	荒廃農地等活用事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	荒廃・遊休農地等	手段 (どのように)	農地中間管理機構を活用した新規就農者や担い手による荒廃農地等の削減
	目的 (どうしたいのか)	年間を通して農作物の収穫体験を実施し、中井町の農業をPRする		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。				
目 標	荒廃農地の実態把握、荒廃農地別の活用計画の検討、荒廃農地別の活用計画の実施			
事業内容		令和6年度 実績	令和5年度 実績	令和4年度 実績
農作物収穫体験事業 参加人数(米)		31人	48人	40人
農作物収穫体験事業 参加人数(ブルーベリー)		84人	88人	54人
農作物収穫体験事業 参加人数(みかん)		39人	83人	46人
遊休農地・荒廃農地		152ha	140ha	133ha

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乗せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乗せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コ メ ン ト		
事業に利用された農地は荒廃化を防いでいるが、ごく限られた面積となっている。収穫体験には毎回多くの応募があり、直接的・間接的に農業へのPR効果は高いが、荒廃農地の根本的な解決には繋がっていない。 現時点で把握している遊休農地(耕作放棄地)は約152haで、今後も増加が見込まれる。所有者には適切な農地の管理をお願いしたい。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

耕作放棄地の増加速度は増しており、耕作者の確保が課題である。JAや農業アカデミーと連携して新規就農者等の受け入れを促進しているが、それ以上に担い手不足や高齢化による影響が大きく荒廃農地の解消は難しい状況である。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
過去の一次評価	C	C	C	C

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	B-2	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である └ ー 1 拡充すべき事業である ー 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) ー 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総評	・収穫体験が荒廃農地対策に繋がっていないと思われます。所有者の適切管理が必要だが、離農や高齢化等により厳しい状況であり、就農者のニーズを把握するとともに、農地の借用等の体制を検討する必要がある。	

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
過去の二次評価	B-2	B-2	B-2	B-2

項 目	河川清掃実施範囲	担 当 課 名	まち整備課
		関 係 課 名	産業環境課
環 境 像	自然環境「四季を感じる自然と共生するまち」		
事 業 名	水辺保全事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民、自治会等	手段 (どのように)	町民が行う自主的な美化活動を支援するとともに、河川の環境保全の一環として事業を行う
	目的 (どうしたいのか)	協働して地域の河川環境の保全に取り組むことによって、町の貴重な財産である水環境を保全し、町民が親しむことのできる清潔な環境を維持する		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。				
目 標	1年あたりの清掃を行った河川延長を現状と同等以上とする			
事業内容		令和6年度 実績	令和5年度 実績	令和4年度 実績
中村川・藤沢川 清掃活動(回数)		2 回/年	2 回/年	2 回/年
中村川・藤沢川 清掃活動(面積)		11,270 m ²	11,720 m ²	11,720 m ²
中村川・藤沢川 清掃活動(活動団体数)		5団体	5団体	5団体

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乗せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乗せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コ メ ン ト		
河川管理者は必要最低限の草刈りとする方針。当事業が河川的美観を保つ一役を担っている。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)	
団体構成員の減少、高齢化により継続が難しくなっている。	

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
過去の一次評価	C	B	B	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します	
--	--

今後の方向性	A	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である └ ー 1 拡充すべき事業である ー 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) ー 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総 評	・高齢化等により、事業継続が難しくなっていることから、関係機関との連携、民間委託も考慮する必要がある。 ・事案4-3に類似したテーマ。(統合すべきでは) ・一度河川管理者が言う必要最低限の草刈を把握する必要がある。その上で町が望む水環境保全を。	

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
過去の二次評価	B-2	A	A	A

項 目	生活排水処理率	担 当 課 名	産業環境課
		関 係 課 名	上下水道課
環 境 像	生活環境「健康で安心して暮らせるまち」		
事 業 名	生活排水処理率向上事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	みなし浄化槽(単独処理 浄化槽)等	手段 (どのように)	広報啓発や戸別保間により下水道区域は下水道に接続、補助事業を有効活用し浄化槽区域は合併処理浄化槽に転換
	目的 (どうしたいのか)	トイレ以外は垂れ流しのみなし浄化槽等無くし、下水道接続+合併処理浄化槽を100%にして、快適な生活環境への改善と公共用水域の水質保全を図る		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。				
目 標	100%(2026年度)			
	事業内容	令和6年度 実績	令和5年度 実績	令和4年度 実績
	転換補助	1件	4件	3件
	下水道接続率	81.7%	80.6%	80.2%
	浄化槽区域の合併処理浄化槽	37.60%	37.4%	36.8%

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乗せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乗せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コ メ ン ト		
少しづつではあるが、下水道接続、合併処理浄化槽への転換は進んでいる。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

下水道接続への転換率向上を図るための広報啓発活動や戸別訪問等の情報提供の継続実施。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
過去の一次評価	B	A	B	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である └ ー 1 拡充すべき事業である ー 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) ー 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総 評	・下水道接続、合併処理浄化槽への転換が微増であり、目標年度(2026年度)100%実現が厳しそう。 ・転換費用の負担問題があるが、更なる啓発活動が必要である。	

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
過去の二次評価	A	A	A	A

項 目	工場排水調査件数	担 当 課 名	産業環境課
		関 係 課 名	
環 境 像	生活環境「健康で安心して暮らせるまち」		
事 業 名	工場排水調査事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町内事業所	手段 (どのように)	鉱油類、プラント、コーティング業、食品業で下水道に未接続の事業所について、水質汚濁防止法に基づく環境基準での排水検査を実施する
	目的 (どうしたいのか)	油・塩基系溶剤などを使用している事業所の調査を行うことにより、河川への排水の安全を確認し、良好な水環境を保全する		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。				
目 標	年3事業所以上（県との連携分を含む）			
	事業内容	令和6年度 実績	令和5年度 実績	令和4年度 実績
	排水検査実施数	3 事業所	3 事業所	3 事業所

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乗せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乗せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コメント		
対象となる11事業所のうち、毎年3事業所で検査を実施している。 事業所が原因となる水質事故は、近年発生していない。（平成26・28年度に各1件発生）			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

対象事業所(11事業所)に対し、毎年3事業所で実施しており、1事業所当たり約4年に1度の検査となっている。
事業所の自主検査など、対策強化の検討も継続的に必要である。
河川への影響を考えた場合、下水道への接続も視野に入れる必要がある。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
過去の一次評価	B	B	B	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である └ ー 1 拡充すべき事業である ー 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) ー 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総 評	・良好な水質を保持するため、排水の安全確認は必要と考えます。今後、4年に1回の検査が妥当かどうか検証していただきたい。 ・4年に一度を3年に一度に改善してください。それだけ監視効果が高まります。 ・事業所における排水検査は必要。継続を。	

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
過去の二次評価	A	A	A	A

項 目	町内一斉清掃参加人数	担 当 課 名	産業環境課
		関 係 課 名	まち整備課
環 境 像	生活環境「健康で安心して暮らせるまち」		
事 業 名	美化活動支援事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民、自治会等	手段 (どのように)	町民が行う自主的な美化活動を支援するとともに、なかいクリーンタウン運動の一環として事業を行う
	目的 (どうしたいのか)	協働して町の環境保全に取り組むことによって、清潔な環境を維持することを目的とする		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。				
目 標	現状を維持する(2017年度 4,426人)			
	事業内容	令和6年度 実績	令和5年度 実績	令和4年度 実績
	町内一斉清掃 参加者	3,905 人	3,777 人	2,036 人
	町内一斉清掃 ごみ回収量(可燃)	10,280 kg	11,730 kg	5,860 kg
	町内一斉清掃 ごみ回収量(不燃)	350 kg	420 kg	200 kg
	クリーンウオーキング 参加者	56名	43名	44名
	クリーンウオーキング ごみ回収量	20kg	20kg	30kg

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乗せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乗せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コ メ ン ト		
前年と比較するとごみ回収量が減少。参加者数は増えているため事業としての認知は上がっているように感じる。町内一斉清掃に合わせて道路の草刈りや河川の整備を行い、草刈作業等の実施有無を明確にするため申出書の提出を依頼。 なかいクリーンタウン運動の一事業として、クリーンウォーキングを実施した。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

自治会構成員の減少や高齢化が進んでいる中、一昨年、去年と比べ参加者数が増加傾向にある。広報や町のSNSを使いもっと参加者を募っていく。また、参加者からは9月に開催している一斉清掃について、残暑が厳しいことから、実施時期の見直しを求められているが、他の行事との兼ね合いなどがあるため実施時期の変更は厳しい状況である。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
過去の一次評価	C	B	B	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である └ ー 1 拡充すべき事業である ー 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) ー 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総評	・一斉清掃、ごみ回収量が増加しており、広報等により周知し継続実施すべきである。 ・町民各人の地元の環境整備として必要な事業。	

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
過去の二次評価	A	A	A	A

項 目	環境展等開催数	担 当 課 名	産業環境課
		関 係 課 名	
環 境 像	環境教育・学習「環境を学び・考え・行動するまち」		
事 業 名	環境展等実施事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民、事業所	手段 (どのように)	環境に関して学び、考える機会を提供する
	目的 (どうしたいのか)	環境への意識の高揚を図る		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	年2回以上			
事業内容		令和6年度 実績	令和5年度 実績	令和4年度 実績
環境展		未実施	6月に開催	6月に開催
美・緑なかいフェスティバルでの啓発		開催	開催	開催
小学校への出前講座		未実施	1校	未実施
自治会への出前講座		1自治会		

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乗せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乗せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コ メ ン ト		
例年6月の環境月間に合わせ、農村環境改善センター及び井ノロ公民館で環境展を実施していたが、6年度は開催できなかった。美・緑なかいフェスティバルではPSプラ容器のリサイクルを現地で行い、資源化の啓発活動を行ったため評価をBとした。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

啓発活動を継続的に実施し、町民・事業者と一体となった環境保全及び地球温暖化防止等、環境意識の向上に取り組む必要がある。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
過去の一次評価	D	D	C	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	A	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である └ ー 1 拡充すべき事業である ー 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) ー 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総評	・環境意識の向上に取り組む必要がある事業であるが、令和6年度の環境展が実施されなかったことから、継続的に啓発が可能な手法の選択も必要と考えます。 ・教育環境は必要であるが、環境展や小学校への出前講座が未実施なのは残念である。	

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
過去の二次評価	A	B-2	A	A

項 目	自然観察会開催数	担 当 課 名	生涯学習課
		関 係 課 名	
環 境 像	環境教育・学習「環境を学び・考え・行動するまち」		
事 業 名	自然観察会実施事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民	手段 (どのように)	事前観察会を実施する
	目的 (どうしたいのか)	里山や水辺を中心とした動植物の生態系などを町民等に知っていただき、町の自然環境の保全等に積極的に取り組んでいただく 特に子供たちに対しては、自然の中で動植物と触れ合う機会を提供するとともに、町の特徴の一つである自然の豊かさやすばらしさを伝え、将来の環境教育の担い手となるような人材育成を図る		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目 標	年5回以上(関係団体等との連携強化)		
事業内容	令和6年度 実績	令和5年度 実績	令和4年度 実績
生物多様性ハイク(参加者人数)	14名	16名	中止
厳島湿生公園自然体験活動(参加者人数)	中止	中止	中止

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	評 価 基 準	
	B	S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成
		C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ
		D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
コ メ ン ト		
これまで子ども会が中心となっていたが、会解散に伴い、令和5年度より生涯学習課事業として実施することとなった。体験活動が2年連続雨天中止となっているが、概ね15名程度の申込がある。		

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

年5回以上の実施を目標に掲げているが、生涯学習課のみでは達成の難しい目標となっている。環境・生物多様性の所管課と連携し、関係団体等の協力を仰ぎながら、目標の実施回数達成を目指したい。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
過去の一次評価	D	D	D	B

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	B - 2	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である └ — 1 拡充すべき事業である — 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) — 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総評	・動植物の生態系などによる自然環境保全の展開は、ボランティア、民間講師や関係団体等の支援が必要と考えます。また、雨天の場合には代替事業を検討すべきである。 ・体験活動の中止が続いているが、予備日や延期等、開催方法を見直しははかがか。	

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
過去の二次評価	A	A	A	B-2